

議 長 会議を再開します。 (午前11時06分)

々 これより、本山議員の一般質問を行います。4番本山議員。

4番 4番本山でございます。よろしく願いをいたします。本日は3点についてお考えをお聞きしたいと思います。

本山議員 さて、今年も出水期の時期になりました。昨年、被災されました地区におきましては、特に天気予報が気になる、そんな毎日を送られていると、ご想像いたします。防災訓練やハザードマップの配布など、予想される災害の減災に向けて努力をいただいておりますが、この時期になりますと、いろいろと報道がなされてまいります。この中に共感をした記事がありましたのでご紹介をいたします。江の川の治水工事は、選択肢の少ない難工事である。それ故、予算面においても不安がある。また、時間もかかる。水害はいつ起こるかわからず、時間の猶予もない。堤防も嵩上げも一朝一夜には、いつ起こるかわからず一長一短にはいかないと、それでも住民が効果を実感しなければ、何のための緊急工事か分からない。緊急対策工事の言葉がポーズに終わることを忘れてはならないと書かれてありました。まさに住民の持つてくる気持ちを代弁しております。この長年動かなかった川本町の江の川の治水は重点的な対策で、速やかに進むことを、ただただ願うのみでございます。

それでは1点目でございます。木村議員と重なる部分もございしますが、よろしく願いいたします。江の川流域治水推進室が開設され、取り組みが始まりました。まず作業の進め方は、江の川中・下流域マスタープランの策定。

次に、地区別計画の策定、そしてまちづくり事業の実施、まちづくりと一体となった河川整備事業の実施となっております。この流れの中で、実施内容の具体化について、早々とお叱りを受けるかもしれませんが、江の川治水関連事業計画の進捗状況は如何なものかをお聞きいたします。また、川本町は、将来世代まで住み続けられる将来イメージをどのように描くのかとお聞きしたいところでございます。今回の谷地区の嵩上げ整備事業は、単に谷地区の問題ではなく、川本町の将来に関わる大きな意味のある事業になると考えます。今のままでは町民の皆様は、単に谷地区の嵩上げとの認識しか持たれないのではないのでしょうか。川本町独自の将来イメージ図の着手が必要と考えますが、如何でございましょう。

次に、2点目でございます。

少子高齢化、価値感や生活スタイルの変化、災害、これらのリスクを最も受ける農業は、担い手不足により耕地面積の減少、資源の活用がうまくいかないなど、大きな影響が出ております。このような状況を打開するために様々な施策がされてまいりました。効果も確かにあったと思います。しかし残念ながら、思うように就農者は増えません。行政が理想とする担い手育成政

4 番
本山議員

策や規模拡大政策は、もはや失敗をしていると思います。もっと現実的な現状に即した農業の担い手像の模索や、そのための政策が必要だと思います。これまでの農業支援事業は、個人農業者まして高齢では使えないものばかりでございました。反面、高齢でも農業を続けたいとおっしゃる方は多くおられます。このような意見を横に置き、生産の追求と規模拡大を目的にしてきたツケがこの現状と考えます。これからは、多様な考えのもと、高齢農業者や自給的農業・新規農業者、女性が安心して農業が目指せるような環境を作ることは、地域農業を維持し、必要な時に生かせる耕作地の維持を図る有益な案だと思います。そこで考えられますのが、このような農業従事者の皆さんに適切で使いやすい助成金制度を作り、長く農業に携わっていただきたいと考えます。地域の景観保持、耕作地の保全、それはもとより農産物を生産することで、生きがいと誇りを持っていただき、いつまでも健康でいていただきたい。言い換えれば福祉行政にも大きな意味を持つと考えます。持続可能な農業者維持のための助成制度の提案でございます。お考えをお聞きいたします。

次に、3点目でございます。

価値感とか多様性が求められる中で、保護者として、また子どもの立場からして、高校の選別は将来の大きな進路選択として、最重要課題でございます。昨年、島根中央高等学校の入学者の減少に、各方面から心配の声が上がっております。新年度になり、課題克服に力を入れておられると思いますが、どのような考えをお持ちか、お聞きいたします。以上、3点についてよろしく願いをいたします。

議 長

それでは、本山議員の質問のうち、1項目めの「江の川中・下流域マスタープラン策定について問う」に対する答弁をお願いします。

番外伊藤地域整備課長。

番外伊藤地
域整備課長

本山議員のご質問のうち、「江の川中・下流域マスタープラン策定について問う」についてお答えいたします。

まず、令和3年3月に、江の川水系流域治水協議会において、流域全体で行う治水対策の全体像が、江の川流域治水プロジェクトとして取りまとめられました。今後、将来世代まで住み続けられる地域を目指し、河川整備とまちづくりが一体となった「江の川中・下流域マスタープラン」を策定し、あらゆる関係者により、流域の安全度向上に向けた基本的方針、手順、事業手法を定めていくこととされています。このマスタープランにつきましては、近年、2度の浸水被害が発生した47地区のうち、家屋浸水被害が発生した15地区について、優先的に策定することとされており、本町においては、谷地区も該当いたします。現在、河川管理者である国、県により、近年の被災状況を踏まえて、整備方針を素案としてまとめる作業を進めていると伺っております。本町としましても、谷地区地元協議会から提出されております

番外伊藤地域整備課長 高齢者が安全・安心に暮らせる福祉ゾーン等の整備要望や、このたび策定しました「第6次総合計画」を踏まえて、国・県・地元協議会と連携し、一体となって、地域づくり計画を検討してまいります。

議長 いただいたの答弁に対して、再質問がありますか。4番本山議員。

4番本山議員 はい。今のお話を聞きますと、まだマスタープラン、途中までで、まだ終わってはいないと、策定はまだ終わっていないというふうに理解をしております。また、将来像に住民の要望を十分に取り入れたものを、県・国と相談して検討していくということでございました。この中でですね私は、これは計画は進捗はこれから追々と加速していくものと思いますけども、いちばん問題にしたいのがですね、川本町の将来図という部分でございます。川本町の町民が住んでいるこの町でございます。川本町が主体になって、川本町の将来像を描くというのは当たり前のことでありまして、国・県がする事業だから、任せっきりというようなことでは駄目だと思います。まず、町が責任を持ってやるべきことをやっていたかないと、谷住民、地区住民が出しております要望者だけでは、まちづくりはできません。この谷地区の嵩上げ事業が、町全体のまちづくりとなるように願うわけでございますが、これから始まるこの大掛かりな整備事業にかかる町の思いは、今のところ全然、伝わってこない、そういう気がいたします。町としては、この庁舎内にそういうグループ、または組織を作られてそういう会議がされてきたのか。そういうことが1回でもあるのか、そこをお聞きいたします。

議長 番外野坂町長。

番外野坂町長 議員ご指摘の内容は、この谷地区の治水対策をですね、そのみに捉えることなく、町の将来をイメージして、町としての主体性のところですね、お尋ねのことであろうというふうに思っております。この私は就任以来、この町ですね、本町が持続的な町であり続けるために、町の将来姿を俯瞰的にイメージして取り組むべき、そういう重要な課題につきましては、これは役場を挙げて横断的に取り組むプロジェクトチームを編成してですね、取り組むという手法をとってまいりました。1つには、これは三原に進出いただいた、株式会社三協さんの、ご寄付を活用させていただいて、地域の皆様の憩いの場の提供といずれは観光交流人口を呼び込む、こういうことを目的に、桜景観植栽プロジェクト、これをしっかり横断的に検討すべき。これは産業振興課を事務局に幹事課として、プロジェクトチームを編成しました。

2つ目は、これは加藤病院さんの動きを核とした医療介護福祉連携、これがですね町にとって必要であろうということで、この動きにつきましても健康福祉課を幹事課として、プロジェクトチームを編成してまいりました。この今、議員ご指摘の谷地区の治水対策につきましては、昨年度までは、国・

番外
野坂町長

県に対する要望という動きをとってまいりました。谷については、県が河川整備計画の前提となる調査費をつけていただいたということで、一步前進をいたしております。このちょっと昨年度の動きから一步前進してきたことを踏まえまして、ご指摘のようにこのテーマについてですね、まだ町の中で、横断的な動きを実はまだ、本日までのところはいたしていませんが、やはり、ご提案のとおりこの重要な弓市に近接するところに、新たな利用可能となるエリアができるということも踏まえて、あとはもちろん地元からですね、単なる治水対策ではなくて町づくりになるような、そういう要望いただいていることも踏まえまして、この度の谷地区における治水対策につきましては、私としては、町を挙げて横断的に取り組むべき重要な課題と、今年度のステージになっていると判断いたしますので、それはご提案を踏まえまして、まちづくり推進課を幹事課とする関係セクションとしては、地域整備課、そして健康福祉課、後に必要のある課もあれば随時加えていきたいと思っております。そういった組織を早急に立ち上げて、皆さんと関係する皆さんと一緒にやっての町づくりの動きをですね、町が主体性を持って取り組んでいけるように、そういう組織の立ち上げを行って取り組んでまいります。

議 長

再質問ありますか。4番本山議員。

4番
本山議員

はい、ありがとうございます。町長から今のご意見をいただきました。たいへん心強く思います。3月議会におきましても香取議員の質問にですね、災害に強いまちづくり計画の策定に取り組むというふうな答弁もされておりますので、是非ともこれを進めていっていただきたいと思っております。

これで1項目めは終わります。

議 長

以上で、1項目の「江の川中・下流域マスタープラン策定について問う」の質問を終了いたします。

々

次に、2項目めの「高齢者農業従事者への助成について問う」に対する答弁をお願いします。番外名原産業振興課長。

番外名原産
業振興課長

本山議員の2項目め「高齢者農業従事者への助成について問う」にお答えいたします。2020年の農林業センサスの速報値によると、本町の基幹的農業従事者数は151人で、そのうち70歳以上は94人と、全体の62.3%を占めており、議員ご指摘のとおり、農家の高齢化と担い手不足は深刻化しつつあります。こうした中、本町による農業におけるハード面での主な支援は、認定農業者や農事組合法人が、農業機械を導入する際や、国・県の補助事業を導入する際に、補助金を交付する農業経営安定支援事業や、生産基盤の強化を図ろうとする農業者が、ハウスを整備する際に補助金を交付する生産基盤強化支援事業など、一定の要件を満たす農業者等への支援に重きを

番外名原産
業振興課長 置いた制度設計となっています。高齢化により、離農や後継者不足が進む中
では、担い手が不在となる集落も増えつつあることから、地域が必要とする
多様な担い手の確保・育成に向けた取り組みが求められています。こうした
課題を解決していくためには、地域の農業者が話し合う機会を持っていただ
く過程で、農地集約に向けた方策やどのような支援が必要なのかを明確にし
て支援していく必要があります。町といたしましては、県を始め各関係機関
と連携して、議員ご提案の視点からの支援を含め、ニーズ調査等に努めてま
いります。

議 長 　　ただいまの答弁に対して、再質問ありますか。4番本山議員。

4番
本山議員 　　はい。ニーズ調査をしていただくというご回答いただきましたので、こ
れ以上、質問をするところはないんですけども、実際にですね、大規模農家
を目指そうと、個人の先祖伝来の田畑を守っていかれようと家庭菜園をされ
ようと目指そうと、家庭菜園を目指そうとされる方におきましてですね、
農業にはいろいろなやり方があると思います。しかし、形は違ってものでは
ないと思います。この高齢化社会の中で、いかに多くの方が労働ができるか、
地域の活性化に繋げるかは、この労働力にかかっていると思います。ハード
の部分で少しでもですね、お助けできれば、まだまだ続けて活躍していただ
けるのではないかと思う、この提案でございますので、検討のほどよろしく
お願いをいたしまして、これは終わります。

議 長 　　以上で、2項目めの「高齢者農業従事者への助成について問う」の質問を
終了いたします。

々 　　次に、3項目めの「島根中央高校支援の取り組みについて問う」に対する
答弁をお願いします。番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長 　　本山議員ご質問の3項目め「島根中央高校の支援とその取り組みについて」
お答えします。島根中央高校は、平成31年度の入学希望者が、当時の入学
定員90名を上回ったことなどから、令和2年度に定員105名に増員され
ましたが、昨年度の入学者数が68名、今年度は60名と2年続けて定員を
下回る状況にあります。その要因について分析しますと、県外からの入学者
については、概ね30名弱程度で推移しておりますが、県内における町外か
らの入学者が減少傾向にあります。さらに、中学生による高校選択の大きな
魅力の一つとされる、部活動に指定を掘り下げて要因を探りますと、従前、
希望が多かった特定の部への入学者数が減少しています。こうした状況を踏
まえ、今年度、高校側も新たな運営体制となったことから、校長先生や教頭
先生をはじめ、担当の先生方と緊密に協議を重ねながら、支援をすることと

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長

しております。

まず、国公立大学等への進路の実現に向けましては、外部講師や担当コーディネーターを配置して、進学ゼミの強化や総合型選抜入試対策の支援に取り組んでいます。

次に、まちごとキャンパス学習や、ふるさと学などでは、地域と協働協働して、探求的な学びを取り入れた、島根中央高校ならではの授業となるよう支援をしております。さらに、部活動の強化に向けましては、外部指導者の雇用、

専門指導者を招聘し、魅力が再構築されるよう支援をしております。コロナ禍で続けることとなる県外生の募集に向けましては、工夫を施しながら取り組んでいるところです。加えて、学校と地域が一体となって、子どもたちを育む、地域とともにある高校の実現を目指し、17日に予定されている地域高校魅力化コンソーシアムの設立を契機として、協働体制を一層強化してまいります。現在、島根中央高校で学んでいる生徒はもちろん、これから入学する生徒、そして本町の子供たちにとって、進路の実現・部活動・仲間づくりと、多様化するニーズにこたえられる魅力溢れる高校が、将来にわたって、本町にあり続けるために、今後も様々な視点から支援をしてまいります。

議 長

ただいまの答弁に対しまして、再質問がありますか。4番本山議員。

4番
本山議員

はい、ありがとうございました。様々な角度から手を尽くそうとしておられますので、ここはよろしく願いをいたします。今お話の中で、17日にコンソーシアムを設立というお話がありました。私もいろいろ、コンソーシアムについていろいろ調べてみたのですが、協働事業体と言ったら良いのでしょうか。こういうことを調べておりましたところに興味近い、前例がございましたので、ちょっとお伝えしたいと思います。これは北海道の足寄^{あしよろ}高校の話でございますが、入学者が激減して、高校の存続の危機を迎えられました。そこで平成7年にコンソーシアムのような組織を作られております。役員は卒業生・町長・教育長・PTA会長・同窓会メンバー。町から毎年900万の交付がされておまして、また町内有志の会員60名から年1万円の寄付がされるような、こういう組織をつくられたそうでございます。ここで活動内容ですけれども、毎年、中学生の進路説明会が開かれます秋口に、メンバーが手分けをして、中学生の自宅を訪問し、高校の資料を渡し魅力を伝える、先ずこれが第1点でございます。そこで志望校の意向などを聞きながら、高校の魅力を伝えておるわけでございますが、中には町外の高校を考えられるご家庭もあるそうございまして、それはもちろん今の多様化の時代でございますので当たり前のことでございます。そこにおきましては、町外に高校を考えるその理由というものを、丁寧に聞くそうございまして。その中では、スポーツをより強い高校に行きたくないと。そして、今まで兄弟が通っているの、そこに行かせたいとか、進学実績の高い高校に入れたい。こ

4番
本山議員

れが三本の指に入る大きな理由だそうでございます。そこで、さすがに進路変更を即すようなことは致さないということでもございました。あくまでも志望校は生徒が決めることであり保護者である方が決めることでありますので、そこの一線は超えないように接しているということでもございました。そこで必ずデータとしてですね、高校は高校生は何を求めているのか、そのニーズをしっかりと把握して、コンソーシアムのようなこの組織の中での総会においては、しっかりと議論をされておるそうでございます。そして、その総会においても、高校の生徒の見える場所でされるそうでございます。それは、町民が高校のためにこれほど頑張っているんだよという、その姿を見せたいがための策だそうでございます。このように一生懸命やられて、この足寄高校は、たいへん大きな実績を上げられたそうでございます。これが、この川本町に合うかどうか分かりませんが、そのような対策をされておりますが、これを聞かれてどう思われますか。ちょっと感想をお聞かせください。

議 長

番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤まちづくり推進課長

失礼します。本山議員から、北海道の足寄高校の事例を聞かせていただきました。本町においてもですね、島根中央高校はですね、これまでも後援会を通じて、信頼関係を作っていたわけですけども、非常に参考となる事例を聞かせていただきました。更にですね、これまで培ってきた信頼関係に加えてですね、町民の皆様、また町内の民間事業者の皆様を巻き込んで協力をいただきながら、更には、地方高校の生徒も一緒になってですね、高校の魅力づくりをしていきたいなということを感じたところでございます。

議 長

4番本山議員。

4番
本山議員

はい。ありがとうございます。何かの参考になればより良い活動ができるんじゃないかと思っております。そこで、郡内には江津市でございますが、桜江中学校と邑智中学校、石見中学校、瑞穂中学校、羽須美中学校、大和中学校といろいろあるわけでございますが、町外との交流もたいへん必要ではないかと思うところでございます。何かこういうところで、会員のこの会の皆様方がそういう活動ができるようなものを作っていただければなと私は思っております。ちょっと余談になるんですけども、最近テレビでですね、島根県の歌、というのが結構流れることがあります。「薄紫の山並みは、はるか希望の雲を呼ぶ」という曲なんですけど、あれを聞いた時にですね、すごくいい曲だなと思ったんですけども、川本町におきましてですね、元来、町民の歌とか川本こゆる歌とか、そういうものがございました。プラスが活発な頃はですね、各地で演奏会もございました。何かそういう時代に、何か懐かしさを感じるんですけども。川本町民はですね、やはりこの吹奏楽、そ

4番
本山議員 ういうものにすごい期待感を持っている部分がございますので、そういう面もしっかりと、今までの遺伝子をですね伝えていただけるような、そういう活動もしていただきたいと思います。返答は要りませんので、これで私の質問を終わらせていただきます。

議 長 はい。以上で、3項目めの「島根中央高校支援の取り組みについて問う」の質問を終了します。

々 これをもちまして、本山議員の一般質問を終了いたします。

々 ここで暫時休憩といたします。
会議の再開は、午後1時00分からといたします。

(午前11時35分)